

氏名 (フリガナ)	佐地 朝日 (サヂ アサヒ)
研修先機関名	Hawaii Tokai International College
研修期間	2024年8月5日 (月) ~ 8月10日 (土)
大学名	新潟大学
学年	5年

1. 研修の目的・目標

私は将来、移植外科医としてアメリカで働くことを目指しており、そのために高度な医学英語の知識と実践的なコミュニケーション能力が必要です。このプログラムは、その目標を達成するための重要な一歩となると考え、参加いたしました。具体的には、英語と日本語をネイティブレベルで使用する能力をさらに発展させ、特に医学用語やケースプレゼンテーションにおいて英語を実践的に活用するスキルを磨くことが目的でした。

2. 研修内容

このプログラムでは、ケースプレゼンテーション、history taking、そして様々な医学講義が行われました。特に印象的だったのは、JABSOMの生徒との2日間にわたるhistory takingのセッションと、それに続く、現地の医師へのケースプレゼンテーションでした。アメリカのレジデントプログラムではケースプレゼンテーションが非常に重視されており、短時間で要点を押さえたプレゼンテーションを行う能力を鍛えることができました。

3. 経験・気づき

プログラムを通じて、PBL (Problem Based Learning) の手法を初めて体験し、その価値を実感しました。しかし、医学用語を英語で覚えきれていなく、今後さらに多くの用語を習得する必要性を強く感じました。また、自分の意見を説明する際、つい日常会話の言葉を使ってしまうことがあり、プロフェッショナルな場ではこれを修正する必要があると感じました。

4. 今後の課題と展望

この研修で学んだことを活かし、プレゼンテーションにおいて重要な情報を的確に短時間で伝えるスキルをさらに磨きたいと考えています。今後は、よりの確な医学用語を使用し、標準的なフォーマットに従って自分でケースプレゼンテーションを行えるように訓練していく予定です。

5. まとめ

まず、このプログラムの実施にあたり、ご指導いただいた日本と現地の先生方、そして施設を提供してくださったHawaii Tokai International College、JABSOM、さらに今回のプログラム参加を支援してくださった日米医学医療交流財団の皆様にご心より感謝申し上げます。また、各大学から集まった参加メンバーとは、共に学び合い、刺激し合いながら研修を進めることができたことに感謝しています。皆のおかげで、この研修は非常に有意義で充実した1週間となりました。今後も情報交換を続け、お互いの目標に向けて共に努力していければと思います。